第104回人間関係講座（グループ）春

-グループの中での人間関係の理解のために- 基礎コース

担当者	池田　満（南山大学人文学部心理人間学科准教授） 土屋　耕治（南山大学人文学部心理人間学科講師）
概要	この講座は、「体験学習」という方法を用いて、グループの中での人間関係について学んでいくものです。ラボラトリー方式の体験学習の入門講座として設定しています。１つの講座は２日間のプログラムで構成しています。 　私たちは、会社や組織、家族や仲間関係など、常にグループの中に身を置いています。「グループの中の人間関係は複雑で難しい」ということをよく聞きます。その理由の１つとして、グループで何らかの仕事や課題に取り組む場合に、話や課題の内容（コンテント）に夢中になり、他者の気持ちやお互いの関係（プロセス）に目が向けられず、いつの間にかお互いの思いにズレが生じることが考えられます。 　この講座は、以下の学習目標に向けて実施します。 　①グループの中で他者と関わる自分の特徴に気づく 　②「コンテント」と「プロセス」とは何かを理解する 　③グループの中での人間関係（グループプロセス）に目を向ける重要性に気づく 　この講座では、ラボラトリー方式の体験学習を用いた実習（典型的な実習）と、グループに関する理論の小講義によって学習を深めていきます。グループの人間関係について理解を深めたい方、ラボラトリー方式の体験学習について知りたい方など、さまざまな方にお勧めです。 【プログラムの内容（予定）】 　小講義「人間関係を体験から学ぶ」「体験学習のサイクル」「コンテントとプロセス」 　「グループプロセスとは？」「グループでの意思決定」など 　グループでの問題解決実習とふりかえり 　グループでの創造的実習とふりかえり 　グループでのコンセンサス実習とふりかえり
日程	2017年6月3日（土）　10：00～18：00 　　6月4日（日）　9：00～17：00　土日集中
定員	36名
会場	南山大学　D棟　D51教室
受講料	11,200円（税込）
メルマガ 講座報告	担当講師　池田　満　記 　去る、2017年6月3日（土）、4日（日）、南山大学名古屋キャンパスにおいて、第104回人間関係講座（グループ）が開催されました。二日間とも6月とは思えない、からっとした涼しげな風が吹く中、東は東京、西は大阪から定員である36名の受講生さんとともに、学びのひと時を持ちました。今回は、本センター員の土屋と池田、若手（？）二人で担当させていただきました。 センターで実施している成人向け講座の参加者のみなさんは、それぞれに　目的意識、意欲を持って足を運んでくださるからなのか、全体のわかちあいや質疑がとても活発に行われ、講座を担当するものにとっても学び（時に、答えに窮する試練？）の場となっております。この二日間も、たくさんの気づきや学びを紹介していただき、多くの質問をいただきました。その中で印象に残った一つが「体験学習のサイクル（EIAHE’）で分析や仮説化を通して目指している一般化とは、どのようなものなのか？」というようなものがありました。 　　ここでいう仮説化や一般化は、もちろん、人間関係のすべての場面に適用できる普遍的な法則を見つけ出そうという意図はありません。このときの小講義を担当していた土屋は、自身の論考から、「体験学習は、人間関係に関するルール・法則を追加、変更、整理し続ける方法の学びである」という回答をしておりました（この論考については、本センター紀要第16号2017）にある土屋の論文をご参照ください）。 　この質問に対して、私が専門とするプログラム評価の観点から、回答を考えてみました。プログラム評価では、たとえプログラムによって目指していた目標を達成できたとしても（アウトカム評価）、その目標達成はプログラムのどの部分がもたらしたのか、プログラムに無駄はなかったか、もっと良　い成果を挙げるための妨げとなった要素はなかったかという、プログラムのプロセスに対する問いかけ（プロセス評価）がなければ、プログラムの発展、 改善、普及はないと考えています。 　EIAHE’のサイクルを通した人間関係の学びも同じではないでしょうか？ 　「今回はうまくいった。でもなぜ？」という、「うまくいった時だからこその問いかけ」を持ち、人との関わり可能性を広げ、高めようという取り組みが、ラボラトリー方式の体験学習を通した学びなのではないかと思います。